

## 平成 28 年度 北秋田市総合戦略検証会議による意見・提言

### <北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略>

#### 基本目標 1 産業振興による仕事づくり

- 各イベントに対して、市としての具体的な集客策が見えない。
- スーパープレミアム商品券事業は、市民に対してのみの販売だったことに疑問。外貨を得るためには市外の方も対象に売ったら良かったと思う。
- スーパープレミアム商品券事業の子育て世帯の購入世帯割合は 43%にとどまっている。(経済的に) 買える人しか利用できなかったのではないかと。少額でも欲しかった人が買えたのか疑問。
- 阿仁合駅のこぐま亭に外国人観光客が増えてきているが、駅のトイレが洋式ではない。洋式トイレは外国人観光客への最低限のおもてなしである。お金を使うのであれば、将来につながる使い方をしてもらいたい。
- 最近台湾からの観光客が多く、たくさんの方がトイレを利用する中、その評判が SNS で広がっていく。いい評価ならいいが悪い評価なら大変なことになる。
- 農業の 6 次産業化は、やりたいから誰でも出来るわけではなく、保健所の許可をもらえる設備を完備する必要がある、希望はあるがなかなかそこまで踏み切れていない現状があり、それが課題である。
- マタギの湯は温泉施設なのに風呂場の蛇口が壊れているところがある。ぜひ早急に対応していかないと苦情が増えてしまう。素材がよい観光資源であるのでしっかりとメンテナンスをお願いしたい。
- 市の特産品の売り込みについて、首都圏等では様々なタイプのイベントがあるので、この商品をどう売り出せば効果的なのか等、戦略的に上手くやっていると効果は得にくい。

#### 基本目標 3 少子化対策

- 女性管理職員の割合について、やりがいを考えるためにも、ぜひ目標値は上げたほうが良い。

#### 基本目標 4 新たな地域社会の形成

- 防災情報メールの登録者数が、なかなか増えていない。市内の保育園でも全て一斉メールを実施しているので、上手く取り込めればどうか。
- 「学校地域支援コーディネーター数」について、地域ぐるみで子供を育てていくためにも、小中学校と幼稚園・保育園の連携を強めることを考えて欲しい。
- 市役所の出前講座はとても良い取組。地域に広めるのであれば、これも目標値として設定できれば良い。
- 内陸線貸切列車への半額助成事業は、国の補助金があるから出来る事業であり、例えば、

貸切列車をオフシーズンは6万円を5万円にしてPRしていく等、もっと他のやり方を検討すべき。

- 阿仁マタギ駅で、障がい者が段差のため降りられなかったので利用できなかった。乗りたくても乗れない、降りたくても降りられないところを改善することが集客につながるのではないか。
- 他県の第三セクターでは、市の広報に片道利用券をつけているところもある。乗車促進するための手立てを継続的に使えるようにしなければいけない。宣伝の仕方と枠組みの作り方が大事と感じる。
- 事業を行う際は、利用しやすいものとしてアピールする必要がある。一般市民への広くPRするよりも、利用しそうな団体（例えば、町内会や小学生・幼稚園等）をターゲットにしたアピールを行った方がよい。

## <第2次北秋田市総合計画>

### 基本理念3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり

- 伊勢堂岱遺跡は、誘客促進による交流人口増加の強力なツールである。生涯学習課所管ではあるが、観光資源として部局横断して観光資源としても取り組んでもらいたい。
- 伊勢堂岱遺跡の標識が分かりにくい。車で行くと片側しか標識が無い。分かりやすくして欲しい。

### 基本理念5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり

- 市民への発信方法として、広報やホームページ等活字で読むのが大変な方が多いので、ごみ収集車が市民歌を流しているように、本日のお知らせや・ニュースなどを流していれば市民も興味がわくのでは。

## <その他>

- 目標値の設定を総人口、高齢化率、生産年齢人口、転入出者数などにすればよいのでは。
- （事業全般的に）国から補助があったから行った事業であって、カンフル剤的な印象がある。根本的な解決につながっているのか疑問。